

市内小学校開校 150 周年記念展示

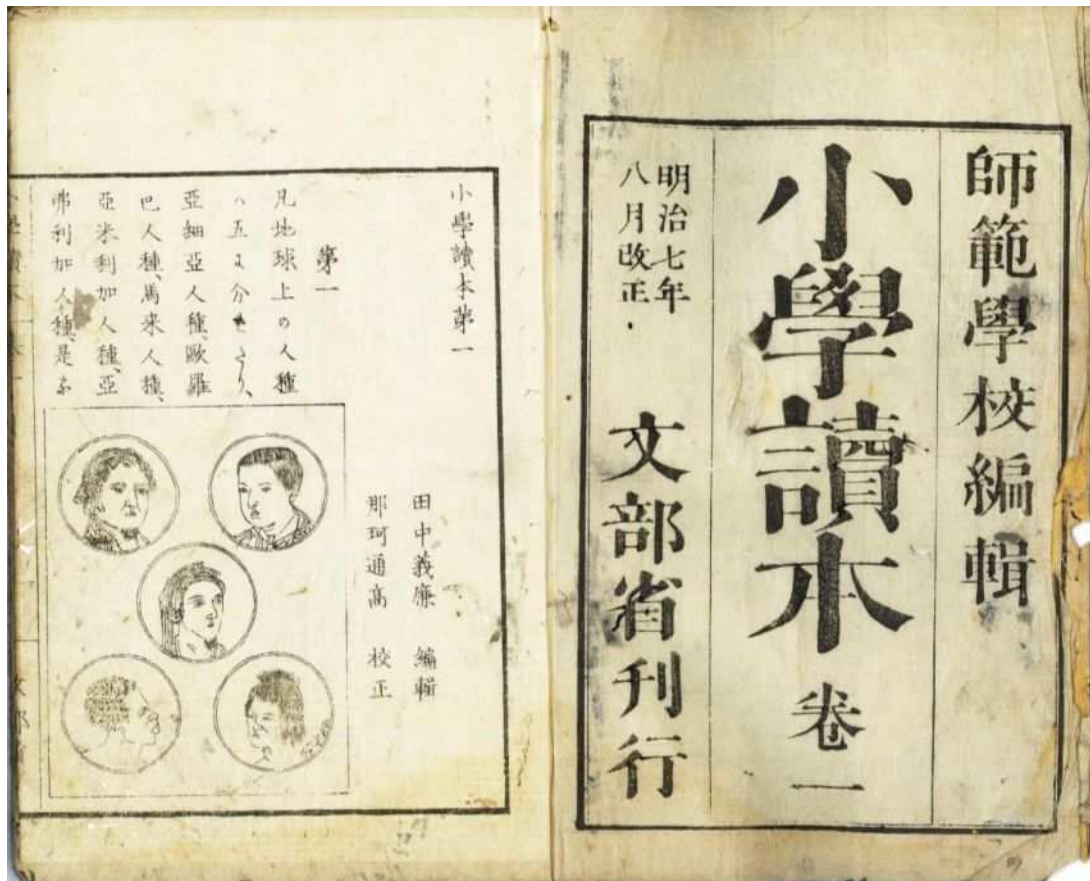
# 「越谷から見た近代教育」 『第一部 近代学校の誕生』

令和5年(2023年)3月10日(金)~28日(火)

於：旧東方村中村家住宅

越谷市レイクタウン 9丁目51番地

☎048-986-7051



(『小学讀本 卷一』明治7年発行 越谷市教育委員会蔵)

越谷市教育委員会

## ご 挨 拶

越谷市立小学校 29 校の内、10 校は明治期に開校しました。その内 8 校は今年でちょうど 150 年になります。とても遠い昔のようにも感じますが、明治維新から第二次世界大戦終結まで 77 年、その終戦から昨年 2022 年までも 77 年ということを見ると、少し身近にも感じることができそうです。

今から 150 年ほど前に始まった日本の近代教育の在り様とその後の変革は、現代社会を形成しています。これを振り返ることで現代社会、そして将来の社会を考える手がかりになればと考え、この『市内小学校開校 150 周年記念展示 越谷から見た近代教育』を企画しました。今回はそのうちの【第 1 部】「近代学校の誕生」というテーマで、当時の教育が目指したことやその背景、また地域の取り組みをご紹介します。

令和 5 年（2023 年）3 月 10 日

越谷市教育委員会

# 『学制』(学事奨励ニ関スル被仰出書<sup>おおせいだされしよ</sup>)

明治5年(1872年)

【序文の現代語要約】(パネルの 1 をご参照下さい。)

人が自分の生業を成り立たせて経済的に自立するには、知識を豊かにして才能を伸ばすことである。それは勉学によって可能になるので、それこそ学校を設立する所以<sup>ゆえん</sup>(理由)である。学問はあらゆる人が身を立てる基本である。道に迷い、飢餓に苦しみ、破産するのは、結局は不学(学問をしないこと)から起こることである。

以前(幕藩時代)には学問は武士以上の身分の者が行うものとされてきたが、往々にしてその内容は空虚なものであることもあった。これからは身分の別なく、あらゆる人が学ばなければならない。村に不学の家がないように、家に不学の人がいないようにすることを期するものである。

かつては学費などを政府(朝廷や幕府、藩)に頼って学問をしていたが、そういう悪習を改め、自らの力で学に従事するよう心得るべきである。

# 初等教育（小学校）移り変わり

時期 年齢		草創期 1870年代 (明治初期)	転換期 1880年代前半 (明治12~18年)	国家主義化期 19世紀末 (明治20年前後)	リベラル対国家統制 20世紀初期 (明治後半・大正・昭和初期)	戦争遂行・終戦 20世紀前半 (昭和中期~大戦直後)	教育民主化 1947年以降 (昭和22年~)			
6歳	小学 下等	8級、7級	小学校 初等科	小学校 尋常	尋常小学校	国民学校 初等科	小学校			
7歳		6級、5級						1年	1年	1年
8歳		4級、3級						2年	2年	2年
9歳	小学 上等	2級、1級	小学校 中等科	小学校 高等	高等小学校	国民学校 高等科	小学校			
10歳		8級、7級						3年	3年	3年
11歳		6級、5級						4年	4年	4年
12歳		4級、3級						5年	5年	5年
13歳		2級、1級						6年	6年	6年
		小学校高等科	小学校	1年	1年	1年	以降は中学校1~3年 (12~14歳)			
就学率	国	約28~40%	約50%	約40~48%	約95%	約99%	99%以上			
	埼玉		約40~50%	約39%	約98%					
教育制度の特徴		明治5年発布の <b>学制</b> による近代教育草創期で、幕末期の藩校や郷学、寺子屋を下地としています。しかし学制の内容は人々の現状と乖離しており、試行錯誤の様子が見られます。 <b>【今回の展示内容】</b>	現状から遊離したものであった <b>学制</b> が廃止され、 <b>教育令、改正教育令</b> による転換期でした。復古的な傾向が見られません。松方財政による大増税・緊縮財政が行われ、それは学校にも影響しました。	<b>小学校令</b> により就学猶予が認められるようになりました。 大日本帝国憲法と <b>教育勅語</b> が発布、教育の国家主義化が進みました。 後、明治33年には尋常小学校授業料が無償になりました。	世界的に <b>新たな教育運動</b> により、大正デモクラシーを背景として、児童を中心としたリベラルな教育が展開されようとした時期です。小学校では <b>高等科設置</b> が増えました。しかし教育の国家統制、戦時体制も強まりました。	戦争が拡大して国家主義や軍国主義が強まり、2度目の世界大戦が起こり、太平洋戦争開戦の年から小学校は <b>国民学校</b> となって、教育内容も戦争遂行に関するものが多くなりました。 <b>【今回の展示内容】</b>	新憲法、 <b>教育基本法</b> に基づく民主的教育の機会均等や均等の原理による、2回目の大きな教育改革が展開されました。 <b>【今回の展示内容】</b>			
地域の様子		<ul style="list-style-type: none"> <li>20余りの学校が生まれ、明治6年には小学校8校が開校。</li> <li>越ヶ谷町大火 1874年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>画家斎藤豊作誕生 1880年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市域は2町8村になる</li> <li>越ヶ谷町大火</li> <li>東武鉄道開通 1899年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市域に電灯普及 (1913~1926年)</li> <li>蒲生や大袋に隔離病舎建設</li> <li>文芸誌の発刊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>越ヶ谷順正会 結成 1935年</li> <li>応召・戦死増加</li> <li>荻島飛行場建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化連盟結成</li> <li>カスリーン台風</li> <li>「越谷町」誕生 1954年</li> </ul>			
社会全体の主な出来事		<ul style="list-style-type: none"> <li>五箇条の御誓文 1868年</li> <li>『学問ノススメ』 1872年</li> <li>自由民権運動 1874年~</li> <li>西南戦争 1877年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>秩父事件 1884年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧米は帝国主義の時代</li> <li>大日本帝国憲法、教育勅語発布</li> <li>条約改正 1894年 治外法権撤廃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の産業革命</li> <li>日清・日露戦争 1894~95年 1904~05年</li> <li>条約改正 1911年 関税自主権</li> <li>第一次大戦 1914~18年</li> <li>国際連盟 1920年</li> <li>普通選挙法・治安維持法 1925年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界恐慌 1929年~</li> <li>満州事変 1931年</li> <li>日中戦争 1937年</li> <li>第二次大戦 1939年~</li> <li>太平洋戦争 1941年~</li> <li>沖縄戦・原爆投下 1945年</li> <li>日本国憲法 1946年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育基本法 1947年</li> <li>新制中学校発足</li> <li>朝鮮戦争 1950~53年</li> <li>サンフランシスコ平和条約 1951年</li> </ul>			

## 下等小学の教科と教科書（前表の   の部分）

教科名 年齢・級		読物	算術	習字	書取	作文	問答	体操
6歳	8,7級	五十音図、濁音図、 <b>単語図、連語</b> <b>小学読本 巻1, 2</b>	加算九九 乗算、 羅馬数字	習字本 仮名 楷書 <b>大日本國書</b>	五十音 単語		単語図、 人体の部分	体操図
7歳	6,5級	小学読本 巻3, 4 <b>地理初歩</b> 地球儀 <b>日本地誌略巻1</b>	加法 減法	習字本 楷書	小学読本 の中の句	単語、句 から題を 採る	地理初歩、地球儀 日本地誌略、地図	体操図
8歳	4,3級	小学読本巻5、地 図、日本地誌略巻2 万国地誌略巻1 <b>日本略史巻1</b>	乗法 除法	行書 草書		同上	日本地誌略 日本略史	体操図
9歳	2,1級	万国地誌略巻2,3 日本略史巻2、 万国略史巻1,2 <b>埼玉県地誌略</b>	四術合法 分数 <b>小学幾何画法</b> (上等小学用)	手紙文 草書		手紙文	日本略史 万国略史 博物図	体操図

表中、**斜体字** の教科書は展示パネルの「2 明治初期の教科書(1)~(3)」で紹介しています。

現代の“国語”に相当する教科が多いようです。当初文部省が設けた教科は「綴字」<sup>かなづかい</sup>や「洋法算術」、「究理学輪講」、「博物」（生物）などでしたが、後に師範学校で作られたものが上の表です。

「問答」という教科は「読物」などの教科書を用いて、教師と生徒が問答形式で進める授業で、当時の欧米の教授手法を取り入れたものでした。

日本の就学率は明治30年代半ばには90%を超えましたが、この速度は世界に例を見ないほどでした。

### 【参考文献】

- ・『学制百年史』(文部省)
- ・『学校の歴史』(第一法規)
- ・『開化期の教科書』(三重大学附属図書館)  
等

# 「規則」

(進文学校規則 越谷市教育委員会所蔵)

## 【現代語要約】

- 一 生徒のこれまでの学識（知識）の優劣とは無関係に、すべて最初は第8級とする。  
(下等小学では6歳児前期、上等小学では10歳児前期の生徒がそれぞれ8級とされました。)
- 一 各級は6か月の修業であるが、特別に優秀の者には昇級を認める。
- 一 生徒は登校したらすぐに記名所に届け出ること。
- 一 朝9時から午後2時半まで授業（学校にいる時間）とする。やたらに席を離れてはならない。
- 一 各授業の開始は呼子（笛、ホイッスル）を鳴らして知らせるので、生徒一同は各自の席に着くこと。
- 一 各授業で終了の時刻になったら、たとえ理解が十分でなくてもすぐに退室すること。
- 一 授業に遅刻したらその日の授業は受けず、9時前に登校すること。
- 一 生徒が下校する際は教員の指揮に従うこと。
- 一 食事の時は静かにすること。食後は1時まで歩行運動を行う。
- 一 病気や事故で欠席する場合には3日以内で許可する。3日以上になる場合にはその理由を教員に届け出ること。
- 一 相手の呼び名には敬意を払い、へりくだって挨拶すること。ケンカや口論をした者には相当の黙罰を命ずる。
- 一 物を乱暴に扱ったり行儀悪いことをしてはならない。
- 一 石盤やガスを貸したからには、破損したらその生徒が弁償すること。  
(「瓦斯=ガス」は「ガス糸」または「ガス木綿」と言われる物かもしれませんが不明です。)
- 一 生徒は長幼や尊卑に関係なく、それぞれの等級による席とする。  
(「長幼」は年上や年下のこと。「尊卑」は身分や家柄のことと思われます。)

明治8年（1875年） 亥年 6月1日改訂

進文学校

# 「越ヶ谷学校」の位置と間取り図

(『越ヶ谷小学校創立 95 周年記念誌』より)



# 越谷市域 近世～近代の町村区割り図

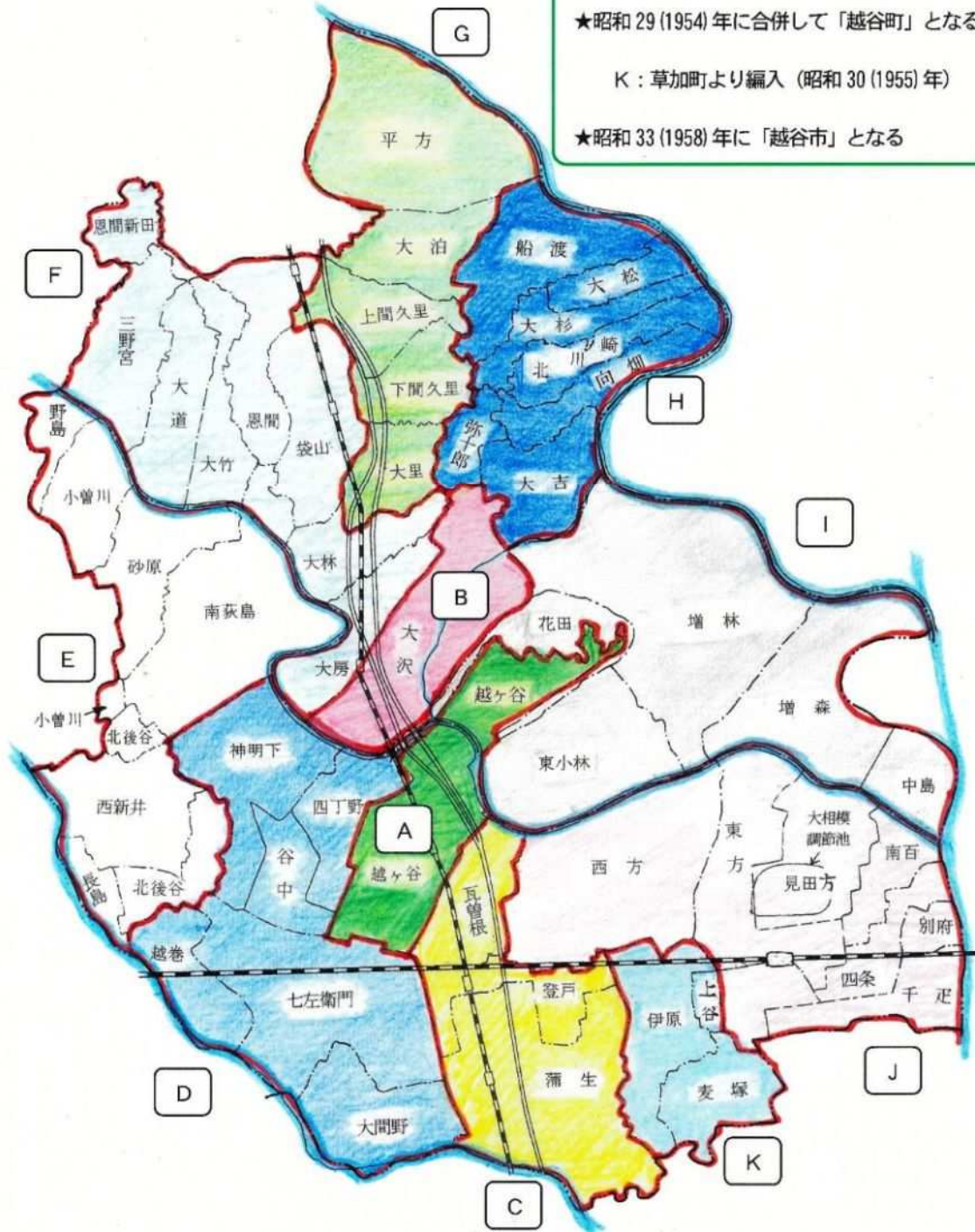
★明治 22 (1889) 年の町村再編成による区割り

- |          |          |
|----------|----------|
| A : 越ヶ谷町 | B : 大沢町  |
| C : 蒲生村  | D : 出羽村  |
| E : 荻島村  | F : 大袋村  |
| G : 桜井村  | H : 新方村  |
| I : 増林村  | J : 大相模村 |

★昭和 29 (1954) 年に合併して「越谷町」となる

K : 草加町より編入 (昭和 30 (1955) 年)

★昭和 33 (1958) 年に「越谷市」となる





( M=明治 T=大正 S=昭和 )

越谷市域の小学校沿革一覽

地区	明治6年 (1873年)	明治9年 (1876年)	明治10年 ~15年	明治17年 ~19年	明治22年 (1889年)	明治25年 (1892年)	明治 30年代	大正4年 ~9年	大正11・12年 (1922・23年)	昭和16年 (1941年)	昭和22年 (1947年)	昭和29年 (1954年)	昭和33年 (1958年)	昭和34年(1959年)以降
越谷	越ヶ谷学校 (越ヶ谷2丁目9番地)			高等科開設		越ヶ谷尋常 小学校	(現在地に新 校舎M35)		越ヶ谷尋常高等 小学校 T11	越ヶ谷国民学 校	越ヶ谷町立越 ヶ谷小学校	越ヶ谷町立越 ヶ谷小学校	市立越ヶ谷 小学校	越谷市立越ヶ谷 小学校 → 分離: 南越谷小 S43、東越谷 S45、宮本小 S51
大沢		啓明学校 (迎櫻院)	M10 大沢学校 (開校)		組合町立 共和学校	大沢尋常小 学校	大沢町立 大沢尋常 小学校		町立大沢尋常 高等小学校	大沢国民学校	大沢町立 大沢小学校	越ヶ谷町立 大沢小学校	越谷市立 大沢小学校	越谷市立大沢小 学校 → 分離: 大沢北小 S46→弥栄 S50→桜井南 S56 北越谷 S48、鷺後小 S53
蒲生	瓦曾根学校 (照蓮院)				蒲生村立蒲生 尋常小学校				村立蒲生尋常 高等小学校	蒲生国民学校	蒲生村立 蒲生小学校	越ヶ谷町立 蒲生小学校	越谷市立 蒲生小学校	越谷市立蒲生小 学校 → 分離: 川柳小 S42、南越谷 S43、 蒲生二 S44→蒲生小合併 (R4)、 蒲生南 S48、西方小 S51、明正小 S54
出羽	啓明学校 (迎櫻院)	育幼学校 (七左衛門学校)		四丁野学校 (育幼学校の 分教場)	出羽村立出羽 尋常小学校		(火災 M33) → 觀照院を 仮校舎 → 落成 M34		村立出羽尋常 高等小学校 T12	出羽国民学校	出羽村立 出羽小学校	越ヶ谷町立 出羽小学校	越谷市立 出羽小学校	越谷市立出羽小 学校 → 分離: 大間野小 S50、宮本小 S51
桜井	平方学校 (林西寺)			大泊学校 (開校) (安国寺)	桜井学校	桜井尋常小 学校		桜井村立桜井尋 常高等小学校 (大正7年)		桜井国民学校	桜井村立 桜井小学校	越ヶ谷町立 桜井小学校	越谷市立 桜井小学校	越谷市立桜井小 学校 → 分離: 大沢北小 S46、平方小 S50
新方	船渡学校 (龍正寺)		向畑学校 (観音堂) (M14)	大吉学校 (M18 徳藏寺)	新方村立新方 尋常小学校	(火災 M31) ↓ 清浄院に移 る	新方村立新 方尋常高等 小学校M34 高等科廃止 M43		高等科設置 T13	新方国民学校	新方村立 新方小学校	越ヶ谷町立 新方小学校	越谷市立 新方小学校	越谷市立新方小 学校 → 分離: 大沢北小 S46
増林	増林学校 (林泉寺)				増林村立増林 尋常小学校			増林村立増林 尋常高等小学 校 T7 農業補習学 校併置 T9		増林国民学校	増林村立 増林小学校	越ヶ谷町立 増林小学校	越谷市立 増林小学校	越谷市立増林小 学校 → 分離: 東越谷小 S45、大沢北小 S46、 花田小 H2、城ノ上小 H19
大袋	大竹学校 (東養寺)			六ヶ村組合尋 常小学大竹学 校						大袋国民学校	大袋村立 大袋小学校	越ヶ谷町立 大袋小学校	越谷市立 大袋小学校	越谷市立大袋小 学校 → 分離: 大沢北小 S46、大袋北小 S47、 北越谷小 S48、大袋東小 S49 【新設】千間台小 S56
荻島	荻島学校 (玉泉院)			荻島村立荻島尋 常小学校 同校分校 M19	荻島村立荻島 尋常小学校			荻島村立荻島 尋常高等小学 校 T11 農業補習学 校併置 T9		荻島国民学校	荻島村立荻 島小学校	越ヶ谷町立 荻島小学校	越谷市立 荻島小学校	越谷市立荻島小 学校
大相模	千疋学校 M7 (東養寺)			東方学校 M17	大相模村立 大相模尋常小 学校 M20			大相模村立 大相模尋常 高等小学校 T 4		大相模国民学 校	大相模村立 大相模小学 校	越ヶ谷町立 大相模小学 校	越谷市立 大相模小学 校	越谷市立大相模小 学校 → 分離: 西方小 S51
川柳	青柳学校 (三蔵院)			青柳学校	川柳尋常小 学校		川柳尋常 高等小学 校 M33			川柳国民学校	村立 川柳小学校	草加町越谷 町組合立 川柳小学校 S30	草加市越谷 市組合立 川柳小学校 S33	草加市立川柳小 学校 S40 越谷市立川柳小 学校 S42 (開校) → 分離: 蒲生南小 S48
	学制施行		西南戦争 M10 教育令 M12 改正教育令M13	秩父事件 M17	帝国憲法発布、 町村合併 越ヶ谷町大火M22 教育勅諭 M23	条約改正 (台外 法権撤廃) M27	越ヶ谷町大火 M32 越ヶ谷町役場 が小学校敷地 内に移る M39	条約改正 (関税 自主権回復) M44 第一次大戦 T3 ~7	東武農業学校 T11 関東大震災 T12 満州事変 S6 日中戦争 S12~	第二次大戦 S14 太平洋戦争 S16~S20	日本国憲法 S21 教育基本法 S22 新制中学校設立	町村合併し、 「越ヶ谷」となる。	市制施行	

## 御 礼

わが国の近代教育が始まってから 150 年になりました。史料からは、当時の世界状況を背景として、試行錯誤、推進と躊躇、あるいは反対などの姿が浮かび上がってきます。地域の先人たちもその動きに唯々諾々と従ったのではなく、ある時は積極的に、またある時は迷い苦渋の選択をしながらも、主体的に取り組んできた様子もうかがえます。

今私たちは近代教育の3度目の大きな試練に面しています。150 年を振り返りながら、今後の社会を支え自立していく子どもたちを育てるためのよりよい方向を目指していきたいものです。

今回の展示に当たりまして、地域の方々、特に市内 10 校の小学校では貴重な資料を拝見させていただきました。また唐澤博物館（練馬区）の方からは多くのご教示を頂きました。改めて御礼申し上げます。

年度末のご多用の時節にもかかわらずご来館下さった皆様、大変有難うございました。

今後は今回の続編として、以下の展示を計画しています。

### 【第二部 終戦前後の学校】（8 月頃 場所は未定）

兵士の出征や英霊帰還、物資の不足、度々の空襲警報などが毎日のようにあった時期、子どもたちはどんな学校生活をしていたのかを、そして終戦後、地域の人々が人間的な生活を取り戻そうと奮闘した様子を貴重な記録で紹介します。

### 【第三部 近代学校の夜明け前】（11 月頃 レイクタウンの

旧東方村中村家住宅にて）

今回の第一部で紹介した明治期の学校が誕生する前の教育活動はどのようなものだったのか、明治6年の学校誕生にも関わった地域の人物を中心に紹介します。

今回同様に、また宜しくお願い申し上げます。

### 【参考文献】

- 『学制百年史』（文部省）
- 『学校の歴史』（第一法規）
- 『近代子ども史年表 明治・大正編』（河出書房新社）
- 『埼玉県教育史』（埼玉県教育委員会）
- 論文「明治中期の地域別就学率の推移と地域再編」  
（玉井康之）
- 講演記述「明治初期の子どもと学校」（橋本美保）
- 企画展図録『開化期の教科書』（三重大学附属図書館）
- 企画展図録『さいたま近代教育の幕開け』  
（さいたま市立博物館）